

新しい筑西市を創る会

(ホームページもご覧下さい <http://www.ojima-shinichi.com/>)

私達の筑西市 動きだした変革を確かなものへ

市議会議員 小島 信一

平成 23 年・第 1 号

SHINICHI OJIMA OFFICIAL WEBSITE



6 月定例会より 報告

地域振興をテーマに一般質問——突出した人口減少

筑西市の人口は、平成 17 年の合併当時、約 112,500 人あったものが、5 年後の 22 年には約 107,500 人に減少しています。つまり 5 年間で約 5,000 人の減少がありました。5 年スパンの減少率は 4.4%です。同時期、結城市では約 52400 人から 52100 人で減少率は 0.6%、真岡市では約 83,000 人から約 82,000 人で減少率は 1%となっております。比較すれば分かりますが、地理的にも、人口規模的にも似ている両市に比べて筑西市は突出して人口が減少しています。地域産業が衰退している証左です。

筑西市は、概ね平坦で、自然災害が少なく、気候的には人の居住に適しています。また、東京圏からの距離は 70 キロ程度であり比較的近く、さらに、鉄道と幹線道路が東西と南北に走ります。恵まれた産業基盤があるように思います。

それなのになぜ、突出して人口減少、すなわち産業が衰退するのでしょうか。要因をどのように分析しているのかお聞かせ下さい。(この他の質問はHPをご覧ください)

市長の答弁

少子高齢化が進み自然動態(出生人口と死亡人口の差から生じる人口変動)の影響が大きくなっています。社会動態(転出人口と転入人口の差から生じる人口変動)も変化しています。今後専門家の分析を待つとともに、交流人口の拡大、定住促進に努めてまいります。

.....

これらが要点でした。私が主張している地域産業の衰退は認めていないようです。少子高齢化は全国的傾向です。筑西市の場合、人口流出が大きな原因なのです。これは雇用の問題だと思います。就職世代の人たちが、筑西市の産業に魅力を感じないか、そもそも職場が不足しているかです。あらゆる産業の可能性を踏まえて雇用の場を増やす政策を考える時だと思います。

筑西市の喫緊の問題は

地域医療とスピカビル

6 月定例会を通し、現時点における筑西市の最も重要な問題は、地域医療問題とスピカビル売却問題だと感じました。両問題に関して執行部が進める政策が是か非か、自分なりの意見を持つには相当の調査・研究が必要です。

スピカビル売却問題

下館駅期前の活性化と地域経済の振興を目的にスピカビルを本来の商業ビルとして活用するために、市当局は民間事業者売却を計画しています。売却条件は、これまでの経緯を踏まえ、最低価格 3,580 万円、業種は商業等(風俗営業や公営競技関連施設、公序良俗に反するものを除く)、買受人資格として反社会的団体またはその構成員でないこと。当然の対応です。しかし(裏面へ)

(表面より) 入札条件に転売禁止がありませんので、応札した企業が早々に転売する可能性もあります。その結果、入札では認めていない風俗店等の業種が出現する可能性があります。この対応策も必要では。

また、現在の3階4階の職員を支所へ移転する計画ですが、合併後の市の在り方として前進なのか、市民の利便性の視点も考慮した議論が必要です。

地域医療問題 — 新中核病院を計画

県西地区の地域医療問題があります。この地域では、医師が不足し、心疾患や脳疾患に対応した高度医療機関が少ないため、一刻を争う救急医療を域外のつくば市や栃木県の自治医科大に求めているのが現状です。

また、筑西市と桜川市にはそれぞれ筑西市民病院、県西総合病院の公立病院がありますが、老朽化や医師不足から医療機能が低下し、抜本的な再生が課題となっていました。

国、県、地元医療圏は地域医療再生計画という共通認識の下、これまで研究・協議を重ねてまいりました。そして、2つの公立病院を統合し、新たに高度医療機能をもつ新中核病院を創る計画をたてたのです。臨時特例交付金が下りることになりました。我われとして大変喜ばしいニュースですが、解決しなければならない問題がいくつかあるようです。

- ① どこに創るか
- ② 医師団をどう確保するか。
- ③ 新病院の経営形態をどうするか(公営・民営)
- ④ 建設費(約70億円)をどうするか。
- ⑤ 2公立病院の位置づけ

どれも難問です。私たちも強い関心を持ち主張すべきことは主張しなければなりません。

筑西市議会

新体制スタート

5月臨時会報告

4年に一度の選挙を経、新議員による議会がスタートしました。新議長、各委員会の委員長、特別議会等の議員が選出されました。新議員24名の内5名の新人議員が誕生しています。この新人5名は、新風を起せるでしょうか。

震災後の初議会は復旧工事費補正予算

議会に提出された報告・議案の大半は被災した公共物の補修費関連です。合計約14億4,000万円に上ります。

ところでこれらの予算は財政調整期金という市の貯金から出しますが、国から交付金を出してもらわなければ埋め合わせが出来ません。そのためにも国会が2次、3次の補正予算を通すことが望まれます。

市民病院はいくらかかって復旧する意気込み

大地震で被災した現市民病院が気になりますが、当面は震災前の医療機能を復旧することを優先します。そのため5億2,000万円の補正予算が計上されました。耐震性を高めるため、現病棟の4、5階部分を撤去し、減少した病床を別棟として建設します。10月完成を目指します。

南中校舎は建て替え

建築後半世紀近く、地元中学生の学舎として務めを果たしてきました。改築は周囲の望むところです。工事費は14億8,000万円で立派な校舎が見込まれます。ところで学校等の建設費は、特別の起債によります。市の単年度予算では賅い切れません。普通建設地方債の一種です。

復旧後の市民病院の概要(一般質問より)

6月定例会・一般質問にたいする答弁の内容は、病床50、診療科は13、救急も受ける2次医療体制と云うことです。入院患者数が半分程度になりますが、ほぼ震災前に戻ります。

議員日誌

「臨時会」

5月18日



臨時会の数日前に付議事件の資料—市長提出議案等目録—が届きました。

目を通しますと、見慣れない言葉が並んでいます。繰越明許費、財政調整基金、収益的収支、資本的収支、過年度分損益勘定留保金……。議場に臨む以上、資料を読みこなせないなど許される事ではありません。とはいえ多少の開き直りも必要でした。初議会の幕が開きます。会派控室から議場に入り自分の名前があるのを確認して着席します。議長選挙、副議長選挙がおこなわれ、議事運営委員会、常任委員会メンバー、その他が次々と決定してゆきます。議案が上程され、執行部から説明がおこなわれます。十数件について肅々と行われます。必死についてゆきます。背中汗でぬれています。最後に評決です。一括上程された事件は次々と賛成起立を求められます。起立、着席、起立、着席、……。不思議な感覚です。